



神さまの守りの中で
のびのび育つ子どもたち



宗教法人日本キリスト教団片瀬教会付属
片瀬のぞみ幼稚園
Katase Nozomi Kindergarten

片瀬のぞみだよ
り

2018年1月号

家庭通信 2018 No. 21

2018年 1月主題聖句

「見よ、わたしはあなたと共にいる。」

創世記28章15節

牧師（設置者）磯部理一郎

片瀬のぞみ幼稚園の皆さん、新年、明けましておめでとうございます。主の2018年を迎えました。Anno Domini（Domini：主イエス・キリストの、anno：時代）は、邦訳で「紀元」と訳されていますが、キリストの愛と救いのもとに万物は2018年目の歴史を迎えた、ということになります。西欧では、キリストの到来をもって、新しい年代の基準としました。神さまの豊かな祝福のもと、皆さまがたはそして全世界は、新しい年をお迎えになり、改めまして心底より新年のお慶びをご挨拶申し上げます。どうか、主に守られまして、本年もよい年となりますように、謹んでお祈りいたします。

新年、すなわち新しい年を迎えるということ、あるいは、時間の往来を経験するということに、新約聖書によると、実は二重の意味があります。聖書の「時間」に二つの異なる用語と意味があります。一つは、「クロノス」という時間概念で、どちらかと言えば、流れてゆく「量」的で、「物理」的な意味に、時間を観る考え方です。もう一つの「カイロス」という用語では、特別な「神の時」を意味し、永遠的な神のみわざが働く「質」的で、「永遠」的な時を意味します。つまり、時を、世の物理的な時の流れとして捉える時と、さらにその物理的時の流れの中にも、超越的に働く「神の時」の現れを体験する時と、両者が区別されて用いられます。つまり、聖書の言葉によれば、「新年を迎える」ということは、ただ単に年を新たに重ね

るという暦の経験である以上に、暦を刻むただ中で、「神の永遠のみわざが働く瞬間」を体験する、ということの意味します。したがって、新しい時と共に、新しい神さまのみわざに触れ、あずかる場が想定されていることとなります。

2018年1月の保育主題は、「見よ、わたしはあなたと共にいる」（旧約聖書の創世記28章15節）です。新しい時を迎える度ごとに、わたくしたちは、新しい神さまのみわざにあずかるのです。神さまから言い直すと、過ぎ去り流れ去る時の流れの中で、いつもわたし（神）はあなたと共におり、あなたのために愛と命のみわざを行い続ける、という約束と決意になります。新しい時を迎える度に、その新しい時の中を貫いて、神さまはいつもこどもたちと共にあり、愛のみわざを行い、それがこどもたちの命の源となり、成長の原動力になっている、という見えない神さまの働きを伝えています。

時に過ぎ越されて、命も存在もすべてが失われ、ついには消滅してしまうことになる。人の悲しみや惨めさとは、このように存在までも全てを人から奪い去ってしまう時の支配にある、とアウグスティヌスは嘆きました。時の物理的支配により、全てが失われて、消滅する儚さを見つめます。わたくしたちは、時に過ぎ越され、消滅し失われるために、新年を迎えたのでしょうか。決して、そうではありません。こうした時の物理的支配の中にあっても、それにもかかわらず、神の永遠のみわざは働き、愛と命の祝福は輝き、過ぎ去る時を新しく永遠の時に変えていく、いわば、神の「質」的な時がある。そうした時こそ「カイロス」という神の時であり、その神の時により、過ぎ去り滅びゆく時は、反対に永遠に新しくされてゆく、という事実にあウグスティヌスは気づき、時を滅びから「完成のために働く時」として、捉え直しました。人は皆、老いと死に憂いを禁じ得ません。しかし老いと死を迎える一方で、神さま確かに、わたくしたちに新しさを増し加えてくださり、ついには、世を超えて、完成へと導くみわざを行い続けておられるのです。物理的消滅に勝利する永遠の輝きが、時の中には秘められています。

わたくしたちは、尊厳ある人格として完成を得るために、新年という新しい時の中に招かれました。こどもは、誰ひとり例外もなく、尊厳ある人格として完成するために生まれ、今日を生かされています。教育基本法の目的を定めた第2条では、教育は人格の完成を目的とすることが明記されています。教育や保育は、失われる人格のためではなく、永遠に生き祝福され、完成に至るためにこそ、実践されるべきです。大切なのは、何人もおかすことのできない厳粛な神さまの愛のもとで、それぞれの人格の完成を、「個性」として、多様で豊かな可能性をで見つめて認める、保育者の眼差しや大人社会の目にあります。

先ず「見よ、わたし（神）はあなたと共にいる」と宣言約束された神の法を基礎に、こどもたちひとりひとりが、常に神の新しい時のもとにあることをたえず保育の心と成して、信頼と謙遜をもって、神の新しいみわざとこどもたちの成長を厳かに見守りたいと思います。こどもたちは皆、神の命と愛の祝福にあふれた神の時を迎えつつ、見事、個性豊かに自己の完成を果たすことができますよう、心から祈らずにはおられません。本年も、園児の皆さんひとりひとりの上に、そしてそのご家族の皆さまがたの上に、神さまの豊かな祝福がありますように！